

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 特定非営利活動法人多文化共生センター東京

1 事業の趣旨・目的

親の来日にともない、日本語が不十分なまま来日した子ども達（主に中学生以上）をサポートするために、各地域の状況や言語習得の知識、年少者教育についての理解を深め、地域で活動するボランティアを養成する講座を開催する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月14日	多文化共生 センター東 京	王 慧瑾 風間 晃 張 正翼 小池 由樹 中野 真紀 子	講座内容の検討	コーディネーターが提案した講座の内容にたいして、それぞれの立場からアドバイスを 行い、講座の内容や講師の選 定がボランティアのニーズに あっているかどうかや、募集 の方法などを検討する。
7月2日	多文化共生 センター東 京	王 慧瑾 風間 晃 張 正翼 中野 真紀 子	途中経過の報告 意見交換	講座前半の報告を行い、問題 点をあげて改善策を考える。 後半のワークショップや実習 にむけて必要な準備について 話し合う。
8月20日	多文化共生 センター東 京	王 慧瑾 風間 晃 張 正翼 小池 由樹 中野 真紀 子	報告 反省	講座の終了にあたって報告を 行い、アンケートに目を通し て事業の目的が達成できたか を話し合い、講座の反省を行 う。次年度につなげることを 前提に問題点を整理する。



3 講座の内容について

- (1) 講座名 外国につながる子ども達を支援するボランティアの実践的研修
「地域と学校をつなぐためのボランティア養成講座」
- (2) 目標
親の来日にともない、日本語が不十分なまま来日した子ども達（主に中学生以上）をサポートするために、各地域の状況や言語習得の知識、年少者教育についての理解を深め、地域で活動するボランティアを養成する講座を開催する。
- (3) 受講者の総数 17 人（延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。）

（出身・国籍別内訳 日本人 17 人）

- (4) 開催時間数（回数） 33 時間 （11 回）
講義 27 時間 （9 回） 実習 6 時間 （2 回）
- (5) 参加対象者の要件 地域のボランティア活動に携わっている者
- (6) 受講者の募集方法
- ・チラシ作成
 - ・多文化共生センター東京の HP に掲載
 - ・多文化共生センター関係者にチラシを配布
 - ・荒川区のボランティア団体にチラシを持参し協力依頼

※チラシ、別添付

- (7) 会場 1
ア 講義 多文化共生センター東京、西日暮里ふれあい館
イ 実習 多文化共生センター東京
- (8) 使用した教材・リソース
担当講師の作成した資料、プリント、参考資料、パワーポイント
講師紹介の書籍、テキスト、実習用テキスト
- (9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
5 / 28 12:15～ 15:30	年少者の 言語教育について	国立国語研究所 日本語教育研究 ・情報センター 野山 広	15 名
6 / 4 12:15～ 15:30	東京都の地域での 取り組み —公立中学校での 日本語支援と	すみだ 国際学習センター	15 名

	墨田区の事例から—	今野 成子	
6 / 1 1 12 : 15 ~ 15 : 30	東京都以外での 取り組み —大阪府の現状と 門真なみはや高校の 事例から—	大阪府立 門真なみはや高等学校 大倉 安央	15 名
6 / 1 8 12 : 15 ~ 15 : 30	年少者の教育と 在留資格等の 法律上の問題について	行政書士 張 正翼	14 名
6 / 2 5 12 : 15 ~ 15 : 30	他団体の活動を知る フィールドワーク (CCS 日暮里教室)	CCS 日暮里教室 小池 由樹	15 名
7 / 2 12 : 15 ~ 15 : 30	外国から来た 子ども達に対する 日本語教育の現状	多文化共生センター 東京 王 慧瑾	12 名
7 / 9 12 : 15 ~ 15 : 30	多文化共生センター 学習支援プロジェクト における取り組みと 学習サポートの方法 (ワークショップ)	学習支援ボランティア 多田 佳明 学習支援リーダー 風間 晃	13 名
7 / 1 6 12 : 15 ~ 15 : 30	現場教師に学ぶ 実践的日本語教授法 (ワークショップ)	東京都北区立 稲付中学校 日本語適応指導教室 小川 郁子	13 名
7 / 2 3 14 : 45 ~ 18 : 00	実習 多文化共生センター東京 学習支援プロジェクトにて	学習支援リーダー 風間 晃	12 名
7 / 3 0 14 : 45 ~ 18 : 00	実習 多文化共生センター東京 学習支援プロジェクトにて	学習支援リーダー 風間 晃	11 名
8 / 6 12 : 15 ~ 15 : 30	まとめ 質疑・感想・交流 ワークショップ	学習支援リーダー 風間 晃 コーディネーター 中野 真紀子	10 名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

第1回 「年少者の言語教育について」

〈アンケートより〉

- ・今までは「日本語を教える」「勉強をサポートする」ということのみに意識が集中していたが、 今後は子どもと日常の話などを多くし、どのような状況におかれているのか、不安に思っていることなどが無い、聞くように心がけたい。
- ・日本語が上達することの裏に、多くの要因、必要な要素があることを、教える立場の者がわかっている必要があるということを考えました。
- ・今回のお話は基本的なことを多く取り入れてくださっていたので、「日本語教育とは」ということを改めて考えられました。
- ・その子が抱えている問題の裏にある原因についてさらに考え、指導方法を工夫していきたいと思います。

第2回 「東京都の地域での取り組み」

〈アンケートより〉

- ・生徒が自分自身の力で生活していけるための支援を考える必要がありました。
- ・日本語教育は目的でなく手段であるということ、再確認しました。
- ・子どものやりたいことを尊重する、自信をもってもらうことが、支援する者の仕事だということが心にストンと落ちました。
- ・日本での生活の手段としての日本語学習だけに終わってしまいがちだが、ネットワーク、周辺の問題にも関心をもち、まわりを動かしていくことが必要だと思いました。
- ・子どもたちとの距離の取り方について参考になったので、それを活かしたい。

第3回 「東京都以外での取り組み」

〈アンケートより〉

- ・外国人の子ども達をポジティブに捉えるという考え方がもっともだと思いました。
- ・子どものルーツや文化について、積極的に聞いてみようと思いました。
- ・渡日生のための教育になにが必要なのかを考え、理想に近い実践をしていっしやる点がすばらしいと感じました。
- ・偏見をなくすことが大事だと強く感じた。
- ・ルーツを大切にすることが、親とのコミュニケーションや自信をもって生きていくために必要だと心して子どもと接していきたいと思います。

第4回 「年少者の教育と在留資格等の法律上の問題について」

〈アンケートより〉

- ・自分が接する子ども達にも、複雑な事情をもった子どもがいるかもしれないということ
を念頭において、接し方を考えていかなければならないと感じました。
- ・外国にルーツのある子ども達が日本に住んで生きていくことの様々な重圧を考えざるを
得ません。自分にできることを少しずつやれたらと思います。
- ・外国から来た人が日本に住みやすい環境をつくるためにも色々学びたいと思った。
- ・親にどんな問題があっても、子どもの教育や生活を守るのは、すべての大人の責任だと
思いました。

第5回 「他団体の活動を知るフィールドワーク (CCS 日暮里教室)」

〈アンケートより〉

- ・忙しい学生さんが、学外でこのような組織をつくり継続して活動されている様子を知り、
感銘を受けました。
- ・子どもと積極的に関わろうという姿勢がとても大切なのだと感じました。
- ・子どもに勉強を教えるうえで寄り添って向き合うことの大切さを知ることができたので、
私も実践していこうと思う。
- ・若い方がこのような子ども達に積極的にに関わり、相手に与えるだけでなく相手から学ぶ
姿勢を持っておられることに希望が見えた。

第6回 「外国から来た子ども達に対する日本語教育の現状」

〈アンケートより〉

- ・子ども達が進学するために柔軟な対応を考えていく必要があるのだと感じました。
- ・自分の存在を認めてくれる場所があるかないかということは、その後の人生に大きな影
響を及ぼすのだと思いました。
- ・子ども達の内側の声を察知できるようになるために、生徒に寄り添う側の覚悟を少しず
つ備えていけたらと思います。

第7回 「多文化共生センター学習支援プロジェクトにおける取り組みと

学習サポートの方法」(ワークショップ)

〈アンケートより〉

- ・先輩ボランティアの方々から不明だったことやどう説明するかなどをわかりやすく教え
ていただいて、たいへん勉強になりました。
- ・分数の教え方など実践に使えるアイデアが多くあがり、とても役に立った。
- ・ボランティアをやる中で困った経験があったので、今回のワークショップで意見を聞け

て、アドバイスをもらうことができたのでほんとうによかったです。

- ・現場にそくした具体的な対応をたくさん聞くことができてよかったです。
- ・このように自由に考える事や実践例を話し合える場があると参加する側の意欲につながっていくのでいいと思います。
- ・いつも悩みながら子どもと接しているので、他の方の意見は参考になります。

第8回 「現場教師に学ぶ実践的日本語教授法」(ワークショップ)

〈アンケートより〉

- ・子どもの生活の目線に立って、なにを教えるか考えたい。
- ・子ども達が自発的に学べるよう、方向づけてみたいです。
- ・生徒が生き生きと喜んで学習に取り組めるような実践をいろいろとお話し下さり、とても有意義でした。
- ・「おもしろいか」「役に立つか」の視点は、これから活用させていただきたいです。
- ・大人が当たり前を感じることで、外国の子ども達にはわからないことがたくさんあるのだということを前提に、子どもと接しようと思いました。
- ・日本語学習を生活や他教科に結びつける様々な方法があることがわかりました。

第9回

「多文化共生センター東京学習支援プロジェクトにて実習」

〈アンケートより〉

- ・小学校6年のベトナム人の女の子が、外国人向けではない学校の教材に一生懸命に取り組んでいて驚いた。
- ・日本語がまだまだわからない子を担当したので、説明するのが難しかった。
- ・日常のことを日本語で話してもらえるような工夫がなにかあればいいのかなと感じました。
- ・夏休みの宿題のプリントをやったのですが、国語といっても地理の内容を知っていなとわからなかったり、その教科だけの知識ではできないのだなと感じました。

第10回

「多文化共生センター東京学習支援プロジェクトにて実習」

〈アンケートより〉

- ・前回と同じ子を担当したのですが、前よりわかる単語が増えていました。日常に必要な単語をもっとたくさん覚えてもらうにはどうしたらいいか悩みました。
- ・日本人がなにげなく使っている表現が子ども達にはわかりにくいようだった。
- ・前回と同じ子を担当したので、今回は勉強だけではなく学校のことや母国のことについて話げできた。

第11回 まとめ「質疑・感想・交流」

〈アンケートより〉

- ・他県での取り組みや、各学校、各 NPO の取り組みを知ることができて、視野が広がったように思う。
- ・専門家の話を聞く機会は少ないので、本講座で様々なことを学べました。とりわけ現場教師の体験談や取り組みはとても興味深かったです。
- ・子どもとどう接していいかわからずボランティアから足が遠のいていたので、この講座をきっかけにまた参加したいと思いました。
- ・現場に根差した講義が多くの観点から組み立てられていて、自分が知らないことに気づかされ、もっと学びたいと感じました。
- ・子どもをとりまく問題について多くの情報をインプットし、いろいろな方と話し合い、意見を伺う機会をもて、たいへん勉強になりました。
- ・現場でボランティアをなさっている方々が必要とする知識を、専門の先生方が効率よく教え、伝えるという場であったと思います。
- ・様々な立場の方々のお話をうかがい、「できることはたくさんあるし、先駆けて取り組んでいる方々がいるんだ」と明るい驚きがありました。

② 実施主体からの研修内容結果評価

これまで支援活動に携わってきた人が知識を深めてこれからの活動に生かせる内容になった。加えて、今まで大人に日本語を教えたことはあるけど子どもは…という人や、他の分野のボランティア活動をしてきた方に、子どもたちの背景や現状を知ってもらい、同時に実践的なワークショップや実習をおこなうことによって、「私にもできるのかな…」と躊躇していた人が支援に踏み出す一歩となった。

アンケートの結果からみて、専門家だけでなく、教諭や、実際に支援に関わっている経験者からの話を組み込んだことは評価が高かったように思われる。また、すでに当団体でボランティアをしている受講者からも「視野が広がった」「新たな気持ちで取り組めるようになった」などの高い評価を得ている。ワークショップなどで他の受講者と意見をかわすことが多かったことも、横のつながりをつくるうえで役立ったと思われる。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

今後さらに地域の学校や他の団体との結びつきを強化し、相互に協力をして日本語を母語としない子ども達をサポートできる環境整備を目指す。また機会があ

れば今回のような講座を開催し、その講座をとおして多くの知識を習得して活動に携わるボランティアを増やし、より安定した地域でのサポートにつなげる。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

今回、CCS（世界の子どもと手をつなぐ学生の会）にフィールドワークに行ったことでつながりができ、相互に情報交換をするきっかけになった。実際にひとつの団体だけではサポートしきれない子どもがいた場合に紹介をしあうなど、実施前より交流が活発になった。

② 研修後の人材活用

講座が終わった後も引き続きボランティアに来るようになった受講者も少なくない

すでにボランティアとして活動していた参加者の意識も向上し、ミニ勉強会などをやりたいという声があがっているので、実施を検討している。また、他のプロジェクトで活動していた受講者が学習支援にも参加するようになったり、習得したことを他のメンバーに伝えることで、ボランティア全体のレベルの向上が期待できる。

(12) 今後の課題

日本語を教えるだけでは、外国につながる子ども達を支援するのには不十分であることはまだまだ認知されていない。ひとりひとりの「知ること」が、よりよりサポートにつながることを広めるために、積極的にボランティアが「学ぶ場」を提供していきたい。

平成 23 年度 文化庁日本語教育委嘱事業

地域と学校をつなぐためのボランティア養成講座

～外国につながる子ども達を支援するために～

日本語が不十分なまま来日した子ども達をサポートしたいと考えているボランティアの方向けに、中学生以上の年齢の子ども達を対象とした支援について学ぶ講座を開催いたします。前半では各地域での取り組みを知り、子ども達を取り巻く諸問題について専門家・実務家から話を聞き、後半はワークショップや実習を通して実践的なサポートの方法を学ぶ予定です。

開 催 日 時： 5/28～8/6 (毎週土曜日)
講義 (5/28～7/16) 実習 (7/23, 7/30) 総括 (8/6)
時 間： 講義 12:15～15:30
実習 14:45～18:00
場 所： 講義 旧真土小学校会議室 (JR常磐線三河島駅 徒歩3分)
西日暮里ふれあい館 (京成本線新三河島駅 徒歩3分)
実習 多文化共生センター東京 (旧真土小学校3階)
対 象： 外国につながる子ども達への日本語指導に興味のある方
日本語ボランティア経験のある方
受 講 料： 無料
募 集 人 数 25名 (先着順)

お申し込み方法

次の①～⑤を明記の上、5/21 までにメール、電話、FAX、郵送いずれかでお申し込み下さい

① 氏名 ②住所 ③電話番号 ④E-mail ⑤ボランティア歴

多文化共生センター東京

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里1-5-8 旧真土小学校3階

TEL&FAX: 03-3801-7127 HP: <http://www.tabunka.jp/tokyo/> E-mail: tokyo@tabunka.jp

旧真土小学校 (多文化共生センター) 地図



西日暮里ふれあい館 地図



＜講座スケジュール＞

全 11 回

	日時		講師
1	5 / 28 12:15～15:30 旧真土小学校	年少者の言語教育について	国立国語研究所 日本語教育研究・情報センター 野山 広
2	6 / 4 12:15～15:30 旧真土小学校	東京都の地域での取り組み ・公立中学校での日本語支援と 墨田区の事例から	すみだ国際学習センター 今野 成子
3	6 / 11 12:15～15:30 旧真土小学校	・東京都以外での取り組み ・大阪府の現状と 門真なみはや高校の事例から	大阪府立門真なみはや高等学校 大倉 安央
4	6 / 18 12:15～15:30 旧真土小学校	年少者の教育と在留資格等の 法律上の問題について	行政書士 張 正翼
5	6 / 25 12:15～15:30 旧真土小学校集合	他団体の活動を知る フィールドワーク (CCS 日暮里教室)	CCS 日暮里教室 小池 由樹
6	7 / 2 12:15～15:30 西日暮里ふれあい館	外国から来た子ども達に対する 日本語教育の現状	多文化共生センター東京 王 慧瑾
7	7 / 9 12:15～15:30 西日暮里ふれあい館	多文化共生センター 学習支援プロジェクトにおける 取り組みと学習サポートの方法 (ワークショップ)	学習支援ボランティア 多田 佳明 学習支援リーダー 風間 晃
8	7 / 16 12:15～15:30 西日暮里ふれあい館	現場教師に学ぶ 実践的日本語教授法 (ワークショップ)	東京都北区立稲付中学校 日本語適応指導教室 小川 郁子
9	7 / 23 14:45～18:00 多文化共生センター	多文化共生センター東京 学習支援プロジェクトにて実習	学習支援リーダー 風間 晃
10	7 / 30 14:45～18:00 多文化共生センター	多文化共生センター東京 学習支援プロジェクトにて実習	学習支援リーダー 風間 晃
11	8 / 6 12:15～15:30 多文化共生センター	まとめ 「質疑・感想・交流」 ワークショップ	学習支援リーダー 風間 晃 コーディネーター 中野 真紀子

※コーディネーター 中野 真紀子 (多文化共生センター東京)